



株主の皆様へ

第135期 期末報告書

2012年4月1日から2013年3月31日まで



カーエアコン用コンプレッサー

株式会社 豊田自動織機
TOYOTA INDUSTRIES CORPORATION

(証券コード 6201)





ハイブリッド車などの電動車に搭載される電動コンプレッサーは、モーター内臓により、アイドリングストップ時にもエアコンの使用が可能です。2003年に世界初となる量産型電動コンプレッサーを発売し、現在では国内外自動車メーカーの多くの電動車に採用されています。

当社は、2020年ビジョンを達成するために成長させる事業を、3つのユニット（ソリューション、キーコンポーネント、モビリティ）に分類しています。コンプレッサー事業は、このうち当社の技術力を活かして、世界中の自動車メーカーを中心とした幅広いお客様へキーとなる部品を提供する「キーコンポーネントユニット」に位置づけており、今後も快適な車室空間をご提供いたします。

(表紙はイメージです)

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。第135期期末報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

国内外の景気が緩やかに回復に向かうなか、当社グループは、品質第一に徹してお客様の信頼におこたえいたしますとともに、各市場の動きに的確に対応して、販売の拡大に努めてまいりました。その結果、当期の業績につきましては、売上高・営業利益ともに前期を上回ることができました。

当期の配当金につきましては、昨年11月に中間配当金を1株につき25円お支払いいたしました。期末配当金につきましては1株につき30円とし、年間としては前期に比べ5円増加の1株につき55円とさせていただきます。

今後の経済の見通しにつきましては、景気の回復が続くと見込まれますものの、国内のデフレ脱却にはなお時間を要するものと思われ、また欧州債務危機の長期化などによる景気の下振れリスク、原材料価格や為替相場の動向などの不透明な要因もあり、企業を取り巻く環境は引き続き厳しいと予想されます。

このような環境のなか、当社グループは、より強固な経営基盤を築き、企業価値の一層の向上に向け、グループの総力をあげて次の課題に取り組んでまいります。

当面の課題といたしましては、いかなる環境の変化にも速やかに対応できる、ゆるぎない企業体質実現のため、事業構造、コスト構造改革を進めてまいります。具体的には、固定費削減の取り組みを継続するとともに、先進国を中心とした既存市場での事業を強化し、成長著しい新興国市場への展開を加速させるため、各地域でのきめ細かな市場調査を徹底し、各市場の特性やニーズに対応した商品の投入を進めます。また、各国・各地域において、最適なコスト、納期を実現する生産・供給体制を構築し、お客様に幅広いサービスを提供するためのバリューチェーンの拡大にも取り組んでまいります。

中長期的には、品質第一を基本に、環境・安全への対応と国際競争力の向上を重要課題としてとらえ、お客様のニーズを先取りする商品・サービスを継続的に提供することにより、世界の産業・社会基盤を支え、豊かな生活と温かい社会づくりに貢献することをめざしていきます。また、2015年度までの具体的な方策を定めた中期経営計画に基づき、2011年10月に策定いたしました2020年ビジョンに向け、当社グループが一丸となった取り組みを進めてまいります。さらに、広く社会の信頼にこたえ、企業価値の向上をはかるとともに、社会との調和ある成長をめざしていく所存です。

株主の皆様におかれましては、今後も引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2013年6月

取締役会長 **伊村 晟** 取締役社長 **豊田 鐵郎**



取締役会長
伊村 晟

取締役社長
豊田 鐵郎

連結業績の概況

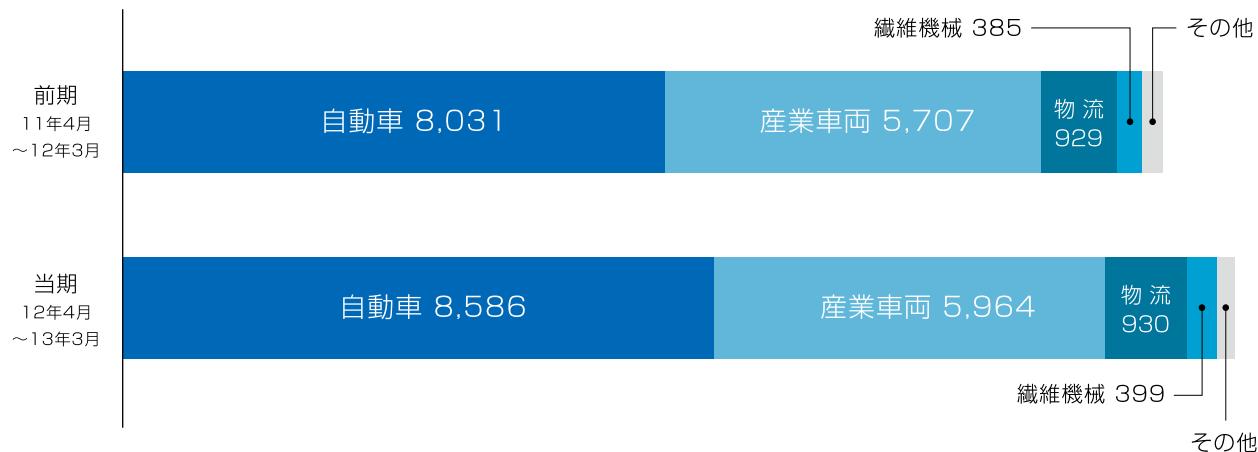
当期の経済情勢を概観しますと、世界経済は、欧州債務危機や中国経済の鈍化による影響はありましたものの、米国や東南アジアの景気が底堅く推移するなど、全体では緩やかに回復してまいりました。国内におきましては、内需・輸出とも低調に推移しておりましたが、新たな経済政策の発表を契機に円高の修正や株式市場の回復が進み、一部に明るい兆しが見えてまいりました。

このような状況のなかで、当期の売上高は、前期を719億円(5%)上回る1兆6,152億円となりました。利益につきましては、研究開発費や人件費の増加などがありましたものの、グループ

あげての原価改善活動の推進や売上げの増加などにより、営業利益は前期を70億円(10%)上回る770億円、経常利益は前期を60億円(7%)上回る868億円となりました。当期純利益につきましては、株式会社ティーアイビーシーの整理に伴う損失67億円を特別損失として計上したことなどから、前期を54億円(9%)下回る531億円となりました。また、1株当たり当期純利益は、前期を18円(9%)下回る170円、1株当たり純資産は、前期末を1,058円(29%)上回る4,720円となりました。

事業別の概況

売上高 (単位:億円)



自動車

自動車部門におきましては、国内市場はエコカー補助金の効果などにより回復し、海外では北米、アジア市場が好調に推移し、世界市場は拡大いたしました。こうしたなかで、当部門の売上高は前期を555億円(7%)上回る8,586億円となりました。

このうち車両につきましては、ヴィッツは減少したものの、RAV4が増加し、売上高は前期を23億円(1%)上回る3,567億円となりました。

エンジンにつきましては、主にKD型ディーゼルエンジンが増加したことにより、売上高は前期を196億円(10%)上回る2,167億円となりました。

カーエアコン用コンプレッサーにつきましては、国内・海外ともに増加した結果、売上高は前期を216億円(10%)上回る

2,281億円となりました。
電子機器・鋳造品ほかにつきましては、電子機器において主にプリウス・アクア向けが増加したことにより、売上高は前期を120億円(27%)上回る570億円となりました。



産業車両

産業車両部門におきましては、国内および北米市場が堅調に推移する一方、欧州、中国および一部新興国市場が冷え込み、全体ではほぼ前期並みとなりました。そのなかで、各市場の状況に応じた、生産・販売体制の強化や商品投入を行いました結果、主力のフォークリフトトラックは海外では前期並みに推移しましたものの、国内が増加したことにより、売上高は前期を257億円(5%)上回る5,964億円となりました。



物流

物流部門におきましては、自動車関連部品の運送事業が増加したものの、子会社でありました株式会社通販物流サービスの保有株式を2011年5月にすべて売却したことにより物流受託事業が減少し、売上高は前期並みの930億円となりました。



陸上運送サービス

繊維機械

繊維機械部門におきましては、市場が停滞するなか、主力の紡機、織機がともに減少したものの、2012年2月にウースターテクノロジー株式会社を子会社化したことにより、売上高は前期を14億円(4%)上回る399億円となりました。



JAT710
エアジェット織機

トピックス

1. 米国カスケード株式会社を連結子会社化



▲ カスケード社のアタッチメントを装着した
フォークリフト

2013年3月、当社はフォークリフト用アタッチメント*製造・販売の世界最大手である米国のカスケード株式会社(以下、カスケード社)を連結子会社化しました。

カスケード社は、お客様の多様なニーズへのきめ細やかな対応と、グローバルかつ効率的な設計・生産体制による優れたカスタマイズ対応力を強みとしています。一方、当社はフォークリフトを中心とする産業車両の開発・生産・販売・サービスをグローバルに展開し、業界のトップブランドとしてお客様にご愛顧いただいています。

新興国を中心としたフォークリフト市場の成長と物流ニーズの多様化を背景に、フォークリフト用アタッチメントの需要は今後拡大していくと予想されます。

当社は、カスケード社のアタッチメントを加え、事業領域を広げることで、お客様の物流ニーズに幅広く対応し、産業車両事業のさらなる成長をめざします。

* : フォークリフトのフォークの代わりに装着し、荷物を直接つかんだり、回転させたりすることで作業性を高め、物流を効率化する機器。

2. 新型RAV4を生産開始



▲ 新型RAV4ラインオフ式

当社は、愛知県大府市の長草工場において海外向け新型RAV4の生産を開始し、2012年12月にラインオフ式を開催しました。従来の生産に加え、アッパーボデーの設計なども新たに担当しています。トヨタ車初の開閉角度を自由に決められるスピンドルパワーバックドアの採用や世界最高水準の安全基準への対応など、当社の技術力を随所に発揮しています。

今後も当社はQCD(Quality:品質、Cost:コスト、Delivery:納期)を一層強化し、短期間での生産立ち上げや生産量・車種ともにフレキシブルな生産体制を活かして、国内でのトヨタ車の開発・生産に貢献していきます。

3. コンテナ搬送AGVシステムが2012年度グッドデザイン金賞受賞



▲ コンテナを搬送するAGV

2012年11月、当社はコンテナ搬送AGV*システムで「2012年度グッドデザイン金賞(経済産業大臣賞)」を受賞しました。

経済活動のグローバル化の進展とともに、世界の物流を支える海上コンテナの取扱量も増加しています。こうしたなか、当社は30年以上にわたるAGV開発で培ってきた技術・ノウハウなどを活かし、コンテナ搬送AGVシステムを開発しました。これは港湾のコンテナターミナルにおいて、埠頭と保管ヤードの間でコンテナを搬送するAGVと、その運行制御を行うソフトウェアからなるシステムです。

このたびの受賞では、「まさにもののデザインと社会システムのデザインの融合の結果といえる。わが国の新しい海事産業戦略の担い手として大いに期待できる。」(審査員コメント一部抜粋)と、ハードとソフトを融合し、新しいしくみを作り上げた点が高く評価されました。

* : Automatic Guided Vehicle 無人搬送車

4. 新型トヨタ産業用エンジンを開発



トヨタ1KD ▲
ディーゼルエンジン

当社は新型トヨタ産業用エンジン「トヨタ1KD(ディーゼル)」および「トヨタ1FS(ガス・ガソリン)」を開発しました。世界的な産業用エンジンの排出ガス規制強化への適応と、燃費向上ニーズの高まりに応えることをねらいに、排気量のダウンサイジングを行い、低燃費かつクリーン、コンパクトを実現しました。

このうちトヨタ1KDは、自社開発のターボチャージャー(過給機)などにより23%の燃費向上を達成し、2013年4月発売の当社フォークリフトに搭載されています。

今後当社は、トヨタ産業用エンジンを、当社開発のフォークリフトへの搭載に加え、広く産業機械用として販売していくことを計画しています。

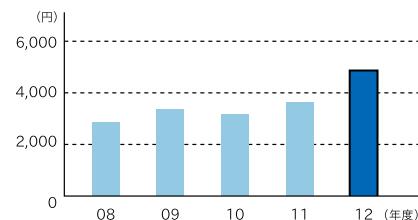
連結決算

連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)

	前期末 2012年3月31日現在	当期末 2013年3月31日現在
資産の部		
流動資産	769,356	780,517
固定資産	1,887,628	2,463,262
資産合計	2,656,984	3,243,779
負債の部		
流動負債	579,527	659,095
固定負債	879,615	1,059,750
負債合計	1,459,142	1,718,846
純資産の部		
株主資本	591,367	630,534
その他の包括利益累計額	550,112	842,980
新株予約権	2,310	1,478
少数株主持分	54,051	49,939
純資産合計	1,197,841	1,524,933
負債純資産合計	2,656,984	3,243,779

1株当たり純資産

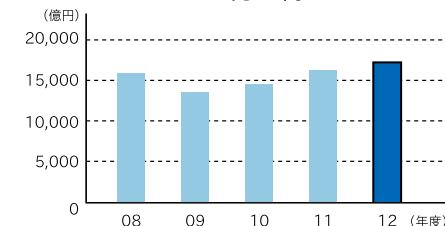


連結損益計算書の概要

(単位:百万円)

	前期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで	当期 2012年4月1日から 2013年3月31日まで
売上高	1,543,352	1,615,244
営業利益	70,092	77,098
営業外収益	34,709	37,043
営業外費用	23,936	27,304
経常利益	80,866	86,836
特別利益	4,599	—
特別損失	—	6,710
当期純利益	58,594	53,119

売上高



経常利益



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

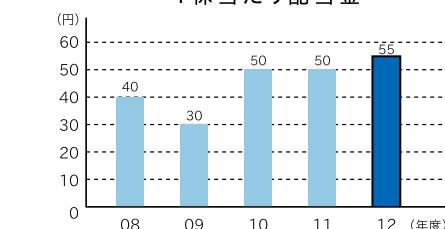
(単位:百万円)

	前期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで	当期 2012年4月1日から 2013年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	101,718	151,299
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,403	△274,210
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,279	7,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,348	△1,591
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	101,244	△117,451
現金及び現金同等物の期首残高	195,566	296,811
現金及び現金同等物の期末残高	296,811	179,359

1株当たり当期純利益



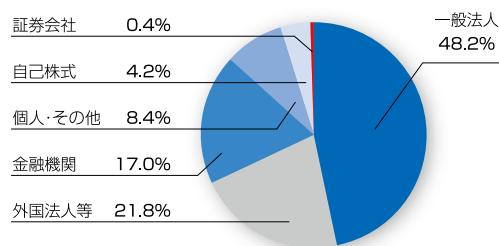
1株当たり配当金



株式の状況 (2013年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,100,000,000株
発行済株式総数	325,840,640株
株主数	20,275名

所有者別株式の状況



大株主の状況

株主名	持株数(千株)
トヨタ自動車株式会社	76,600
株式会社デンソー	29,647
東和不動産株式会社	15,697
豊田通商株式会社	15,294
日本マスタートラスト信託銀行株式会社<信託口>	9,677
日本生命保険相互会社	6,735
アイシン精機株式会社	6,578
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社<信託口>	6,352
豊田自動織機従業員持株会	5,416
オーエム04エスエスピークライアントオムニバス	4,192

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式13,632千株があります。

会社の情報

設立 1926年11月18日 従業員数 連結47,412名、単独13,157名(2013年3月31日現在)
 資本金 804億円(2013年3月31日現在) 本社所在地 〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 TEL 0566-22-2511(代表)

取締役 (2013年6月13日現在)

代表取締役会長 豊田 鐵 郎
 代表取締役副会長 吉田 和 憲
 代表取締役社長 大西 朗
 代表取締役副社長 山口 千秋
 代表取締役副社長 佐々木 一 衛
 代表取締役副社長 森下 洋 司
 専務取締役 古川 真 也
 専務取締役 鈴木 雅 晴

専務取締役 佐々木 憲 夫
 専務取締役 小河 俊 文
 取締役 加藤 正 文
 取締役 大西 敏 文
 取締役 小川 隆 希
 取締役 大塚 幹
 取締役 張 富士 夫

執行役員 (2013年6月13日現在)

常務執行役員 野崎 晃 平
 常務執行役員 山本 卓
 常務執行役員 福永 恵 一
 常務執行役員 浅井 裕 章
 常務執行役員 藤原 啓 税
 執行役員 土本 幸 久
 執行役員 伊藤 天
 執行役員 山岸 俊 哉
 執行役員 原田 淳 一
 執行役員 岡本 幹 彦
 執行役員 村田 康 弘
 執行役員 水野 陽 二郎

執行役員 川口 真 広
 執行役員 豊田 晋
 執行役員 石崎 裕 二
 執行役員 原 敬 三
 執行役員 栗本 清 次
 執行役員 國遠 正 章
 執行役員 志水 敏 彦
 執行役員 伊藤 浩 一
 執行役員 河井 康 司
 執行役員 粥川 浩 明
 執行役員 山口 和 幸

監査役 (2013年6月13日現在)

常勤監査役 吉田 成 毅
 常勤監査役 石川 覚 雄

監査役 渡辺 捷 昭
 監査役 三田 敏 雄
 監査役 ハスニュー・ガ・マルカ

株主メモ

■事業年度
 4月1日から翌年3月31日まで
 ■定時株主総会
 6月
 ■配当金支払株主確定日
 3月31日
 なお、中間配当を実施するときは9月30日

■株主名簿管理人・特別口座管理機関
 三菱UFJ信託銀行株式会社

■上記連絡先
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711

□ 単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社の株式は1単元が100株となっており、単元未満株式(100株未満)については市場で売買できません。ご所有の単元未満株式の売買をお考えの場合は、以下の制度をご利用ください。

- 単元未満株式**買取**制度 単元未満株式を**当社にご売却**いただくことができます。
- 単元未満株式**買増**制度 単元株式(100株)にするために、不足分を**当社からご購入**いただくことができます。お手続きの詳細につきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)までお問い合わせください。

□ 特別口座の株式について

「特別口座」の株式は、単元株式(100株)であっても、特別口座のままでは市場で売買できません。「特別口座」にご所有の単元株式について売買をお考えの場合は、「特別口座」から「証券口座」への株式のお振替をお願いいたします。お手続きの詳細につきましては、三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。

□ 株式に関するお手続きのお問い合わせ先

株式に関する各種お手続きの窓口につきましては、株主様の株式の所有状況によって異なりますので、ご注意ください。

ご所有されている株式の口座区分	お問い合わせ先
特別口座	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
証券口座	口座を開設されている証券会社 ※

※：未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。

この期末報告書に含まれる将来に関する記述は、現在において入手可能な情報に基づき記載されたものであり、実際の業績は、経済情勢・為替相場の変動等に係るリスクや不確実性により、記述と大きく異なる可能性があります。



TOYOTA

株式会社 豊田自動織機

〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地

TEL 0566-22-2511 (代表) FAX 0566-27-5650

ホームページ <http://www.toyota-shokki.co.jp/>